

# バス待ちの不安・ストレスを解消する「バスロケーションサービス」

## バスと利用者の動きを「見える化」し バス接近情報をリアルタイムに把握

路線バスは、バスの到着時間や遅延状況などが把握できないため、利用者は不便を感じている。高知県内で路面バスを運行する、とさでん交通(株)と、交通系ICカード「ですか」を運営する、とさでん交通グループ(株)ですかは、スマートフォンとクラウドを活用したバスロケーションサービス(以下バスロケ)「バスこっち」を導入した。これにより地図上でバスの位置情報提供、路線図・停留所・運行ダイヤ・遅延情報の提供を低コストで実現し、路線バスの利便性向上と乗客増、経営体質強化を図ることができた。導入には高知県公共交通基盤整備事業費補助金が用いられた。



(株)ですかのみなさんと、富士通(株)のプロジェクトメンバー。

### プロジェクトの経緯

#### 全停留所への設置はコスト面から無理 名称入力方法などは使い勝手が悪い

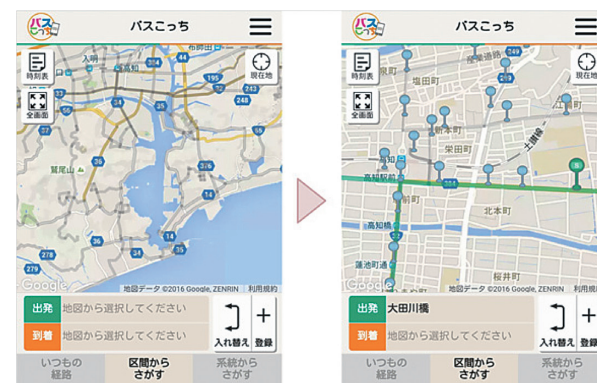
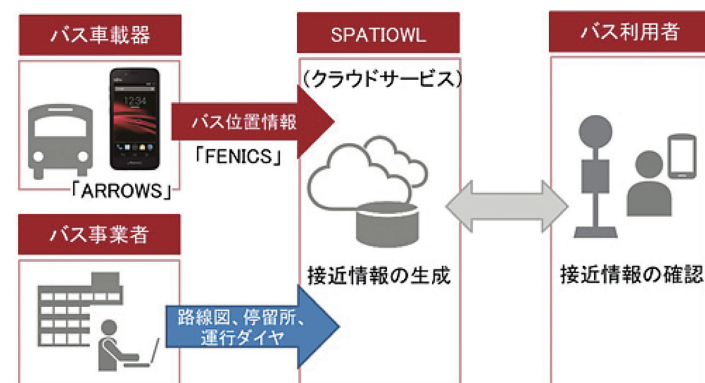
多くのバス事業者では、利便性向上を図るバスロケの導入が進められている。しかしサービスの実施には、停留所の多さや複雑化した路線のため、出発・到着地点の名称を把握することは難しく、名称入力や一覧から選択する方法では使い勝手に課題があった。

交通系ICカードの「ですかICシステム」を手がけた富士通(株)は、システム更新を機に位置情報クラウド「FUJITSU Intelligent Society Solution SPATIOWL(スペースイウル)」によるバスロケを、とさでん交通グループに提案した。

#### これしかないと思った! 利用者がいつでもどこでも参照でき 設備投資も不要

とさでん交通と県交北部交通の約160の全路線・1,200の全停留所、および運行しているバスの現在位置を地図上にマッピング。利用者は乗車する停留所の場所を地図上で指定するだけで、バスの接近情報や遅延情報などを容易に調べられる。また、乗り降りしたい停留所を選択すると、その停留所を通る路線が強調表示されるので、複雑な路線についても迷うことなく確認することが可能となる。バスの持つ情報をクラウドへ送信する車載器には、スマートフォンを採用した。

位置情報を活用することにより、接近表示機など設備機器が不要、低コストで導入されたバスロケ「バスこっち」は、全国でもかなり先進的な取り組みとして、2016年4月1日より稼働を開始した。



### 導入の効果と成功のポイント

「シンプル」をキーワードに機能をスリム化・簡単操作で、使いやすく、わかりやすく

富士通(株)は、設計段階で「シンプル」がキーワードであると感じていた。バス停名を知らない方にも、乗りたいバスがいつ来るのかが簡単な操作でわかるように、ということにフォーカスして、(株)ですかと機能のスリム化を何度もディスカッションし、実現に繋がった。

#### 1 クラウドサービス「SPATIOWL」を基盤に構築

位置情報を活用したクラウドサービス「SPATIOWL」を基盤とし、約10秒周期で収集されるバスの位置情報と、バス事業者が所有する路線図、停留所、運行ダイヤなどの情報を統合。これにより、停留所から見たバスのリアルタイムな接近情報が地図上で把握できるほか、運行ダイヤと比較した遅延情報もバス利用者に提供。

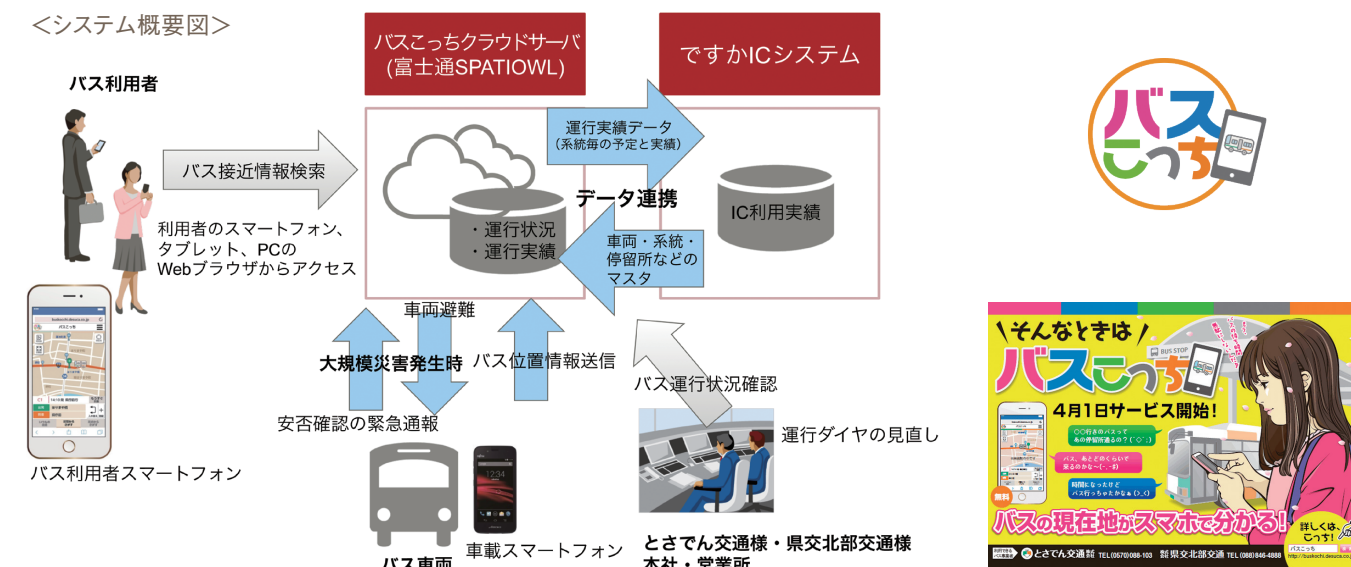
#### 2 スマホにアプリをインストールして簡単利用

バスの車載器はスマートフォンを活用し、今回開発した「SPATIOWL」と連携するAndroidアプリケーションをインストールするだけで、バスの位置情報を収集。

#### 3 回線費用を低減

モバイル通信環境には、LTE回線を利用した高速・安価なMVNOサービスを活用して回線費用を低減。

#### <システム概要図>



富士通株式会社 <http://www.fujitsu.com/jp/>

0120-933-200 富士通コンタクトライン(総合窓口) 受付時間 9:00~17:30(土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く)